

Title	救急科入院重症疾患患者におけるリハビリテーションの早期介入効果
Author(s)	山下, 康次
Citation	
Issue Date	2017-03-23
URL	http://hdl.handle.net/10129/6121
Rights	
Text version	author



<http://repository.ul.hirosaki-u.ac.jp/dspace/>

細則様式第 4 号

論文審査及び最終試験結果報告書			
氏名	山下 康次		
入学年度	平成25年度	学籍番号	13GG605
領域	健康支援科学	分野	障害保健学
審査委員	主査	若山 佐一	
	副査	渡邊 純	
	副査	石川 玲	
	副査	高見 彰淑	

論文題目： 救急科入院重症疾患患者におけるリハビリテーションの早期介入効果

審査結果要旨：

これまでの ICU 等での重症疾患患者のリハビリテーションの歴史を俯瞰した文献的考察を踏まえ、勤務施設の救急科におけるリハビリテーションの質的改善評価の実施を行い、後方視的研究であるが救急科重症患者のリハビリテーションの成果を記載し、歩行可能となった人工呼吸器患者の早期離床の安全管理について検証している。世界的に途に就いたばかりの救急科における早期リハビリテーションの取り組みと、その効果を示した臨床研究で、持続的鎮静や鎮痛を間欠制とし、救急医、看護師協働の下で、早期覚醒、早期離床が実現可能となるなど多くの注目すべき知見が得られている。

申請者は研究の意義、結果について十分に理解しており、学位審査論文及び学位審査会においてそれらをわかりやすく記述及び口述できていた。また、質疑にも戸惑うことなく答えることができおり、研究テーマについての造詣が深いことを感じとることができた。

リハビリテーションの早期介入効果を検証し、さらに早期離床に伴う安全管理についても検証していく過程は、独立した研究者として研究を遂行できる能力と高い倫理観を身につけていることが示されていた。このような過程について、リーダーシップをとり遂行できたことは、博士の学位に十分に値いし優秀な能力を有していると判断できた。

最終試験 平成 29 年 2 月 8 日

試験の結果は 合格 ・ 不合格 と判定する。